



所長ご挨拶

水産総合研究所長 吉田 達

水産総合研究所長3年目になります。平成元年に採用になって38年間のうち、25年間で研究所で勤務し、主にホタテガイ増養殖に関わってきました。

研究機関とりわけ地方水試の役割で最も大切なことは現場に足を運び、漁業者、養殖業者に寄り添って、意見や悩み事をしっかり聞くことです。その上で、県、国（水研）、大学などと連携しながら、より高度な調査研究に取り組み、課題解決を図ることにより、漁業者、養殖業者から“頼られる研究所”でありたいと思っています。

本県の主要魚種であるホタテガイ、イカ、サケなどは最盛期の水揚げが見る影もないほど落ち込んでいます。これには温暖化をはじめとする海洋環境の劇的な変化、混沌とする世界情勢に伴う物価高騰、後継者や労働力不足など解決困難な複数の要因が関係しているため、数年前のコロナ禍と同様に“出口の見えないトンネル”を彷徨っているかのような閉塞感が浜に漂っています。

とはいえ、まだやれることは残されているはずです。そのためには、これまでの常識にとらわれない大胆な発想により、挑戦する気持ちを大切に、関係者の皆さんが一緒になって、取り組んでいく必要があります。

私は今年で60歳になります。所長として最後の年になるので、喫緊の課題を1つでも多く解決するとともに、後進の研究員たちに今後の道筋をしっかりと示していきたいと思っています。



目次

所長ご挨拶	1
令和8年度の職員配置と主な業務	2
令和8年度の各部室の主な事業紹介	3
陸奥湾のマナマコ資源動向について	5
水産研究職員の採用募集の案内	6
主な年間行事予定	7

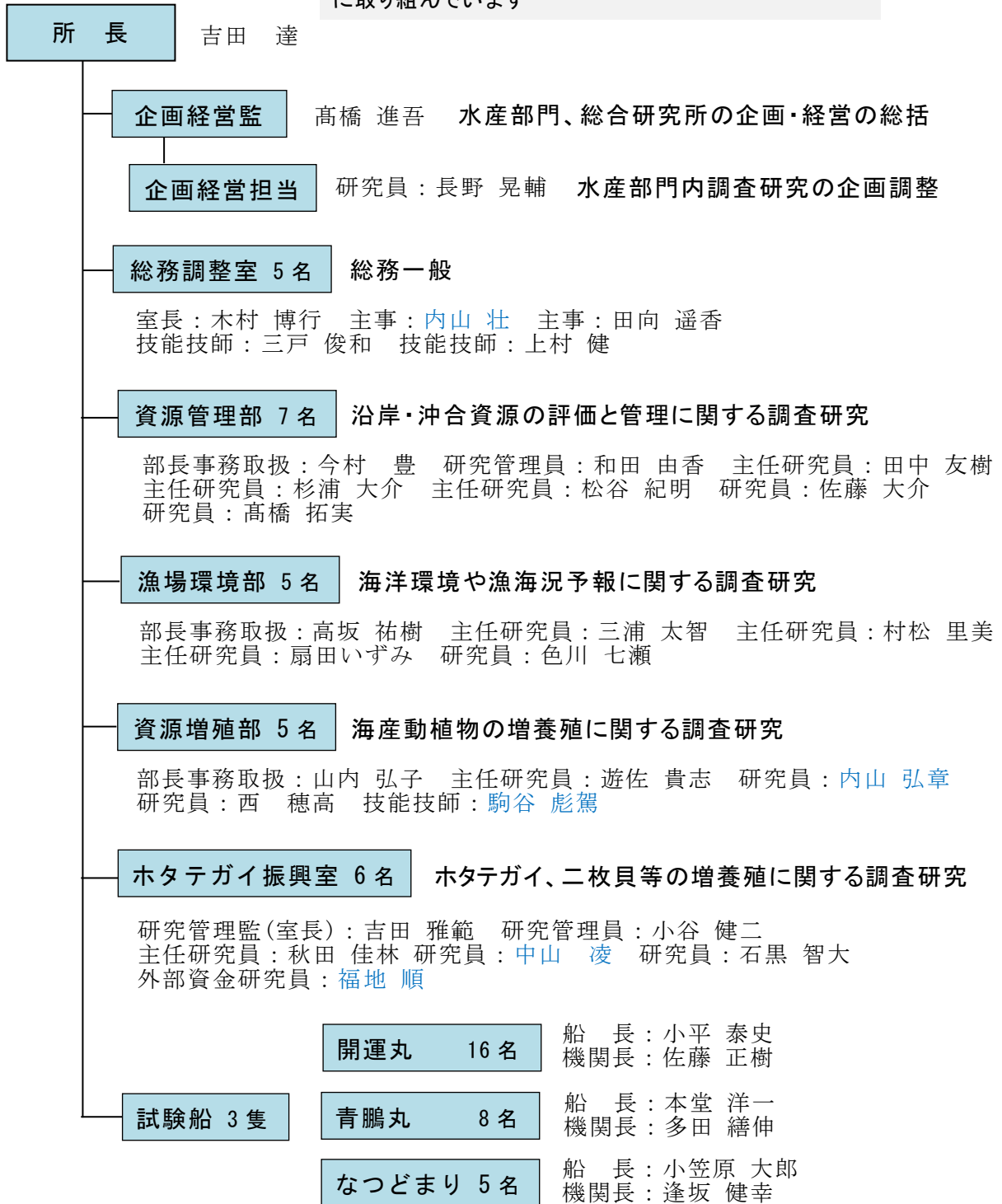
水と漁 URL https://www.aomori-itc.or.jp/soshiki/suisan_sougou/houkoku_kanko/water_isari.html

【発刊】地方独立行政法人青森県産業技術センター URL <https://www.aomori-itc.or.jp/>
水産総合研究所 〒039-3381 東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10 TEL 017-755-2155 FAX 017-755-2156

令和8年度の職員配置と主な業務

【水産総合研究所】

海面における水産資源、漁場環境、漁海況の調査と研究、増養殖の技術開発・指導、効率的漁法の開発に取り組んでいます



※青字は異動者です

令和8年度の各部室の主な事業紹介

資源管理部

○ 水産資源調査・評価推進委託事業（平成12年度～）

我が国周辺海域で利用可能な魚種の持続的な資源利用に資するため、(国研)水産研究・教育機構、関係都道府県の水産試験研究機関等と共同で調査を行い、科学的・客観的根拠に基づいて資源評価を行っています。

当研究所では81魚種（ヒラメ、ブリ、マダイ、ハタハタ、ウスメバル、ホッケなど）を対象として、漁獲情報収集調査や体長組成・年齢などを調べる生物情報収集調査などを行っています。

○ 重要魚類資源モニタリング調査（平成21年度～）

青森県海域において重要水産資源であるムシガレイ、マダラなどの底魚類について、底曳網による調査を行い、分布状況や発生状況を把握し、資源現状と動向を評価しています。

○ ブリの来遊予測に関する調査研究事業（令和5年度～令和9年度）

青森県で安定的に漁獲され、重要な魚種となっているブリについて、来遊予測手法を開発し、漁家経営の安定に貢献します。



底曳網調査により採集されたマダラの稚魚

漁場環境部

○ 資源評価調査委託事業（平成12年度～）

漁況予報等の基礎資料とし、その結果を漁業者等に提供するため、青森県の日本海及び太平洋で定期的に海洋観測を行っています。

○ 貝毒プランクトンモニタリング業務委託事業（平成21年度～）

ホタテガイをはじめとする二枚貝の食品としての安全性を確保するために、青森県沿岸域における貝毒原因プランクトンの出現動向を調査しています。

○ 漁業公害調査指導事業（平成8年度～）

陸奥湾の水質や底質、底生生物を測定・分析し、長期的な変動を把握することで、ホタテガイなどの漁場環境をモニタリングし、安定生産に貢献しています。



漁業公害調査指導事業における陸奥湾の底質調査
(左側：採泥器、右側：採取した底泥の処理)

資源増殖部


- マツカワの漁港内における海面養殖技術に関する試験・研究開発（令和4年度～令和9年度）
マツカワ養殖を県内に広く普及するために、陸上養殖並みの成長を目指した海面養殖技術を開発します。
- 放流効果調査事業（令和4年度～令和8年度）
栽培漁業基本計画の技術開発対象種であるマコガレイ、キツネメバルの放流効果等を調査します。
- 日本海の「つくり育てる漁業」技術高度化事業（令和6年度～令和8年度）
アカモク養殖試験を行うために必要な種苗の粗放的な生産技術開発試験を行います。



令和7年11月に日本海に種苗沖出し後、生長したアカモク（令和8年3月）

ホタテガイ振興室

- 陸奥湾ホタテガイ総合戦略事業（令和6年度～令和9年度）
陸奥湾ホタテガイ養殖の安定生産のため、ホタテガイの安定採苗、高水温と餌料環境変動に対応した養殖技術に関する試験研究を行います。
- デジタル技術を活用した養殖ホタテガイの生産性向上に関する試験・研究開発（ほたてナビ）（令和6年度～令和10年度）
ホタテガイ養殖において重要な作業である採苗を的確に実施するために必要な調査データを閲覧できるシステム「ほたてナビ」を開発します。
- ホタテガイ増養殖安定化推進事業（令和6年度～令和10年度）
天然のホタテガイ稚貝を安定的に確保するためにホタテガイラーバ調査等を行い、ホタテガイ採苗速報や養殖管理情報を発行します。



陸奥湾ホタテガイ養殖支援システム

ほたてナビ

試験運用中

ラーバ

試験採苗

付着稚貝

環境情報

環境情報

エサの目安(クロロフィル)

調査日：2026年3月5日

○エサの量の目安（水深1～20m）

海域	評価
全湾	かなり少ない
西湾	かなり少ない
東湾	やや少ない

○海域ごとの変動（水深1～20m）
(今年・昨年・平年の比較)

海域

 全湾
 西湾
 東湾

全湾 クロロフィルa量

2026年
 2025年
 平年

3.0

試験運用中の「ほたてナビ」

陸奥湾のマナマコ漁獲動向について

資源増殖部 西 穂高

青森県のマナマコ漁獲量は 2013 年以来減少傾向にありましたが、直近 2 年では増加に転じ、2025 年は 10 年ぶりに 1000 トンを超えました(図 1)。しかし、この漁獲量の増加の背景では、漁獲物の構成にも変化が生じている可能性があります。今回は、漁獲量の数字からは見えにくい最近のマナマコ漁獲動向についてお話しします。

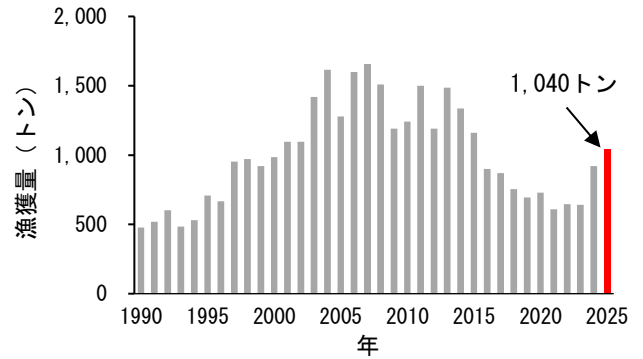


図 1. 青森県マナマコ漁獲量の推移

本県で漁獲されるマナマコは、ほとんどがマナマコ (*Apostichopus armata*)です。本調査では 2024 年漁期(2024 年 10 月－2025 年 4 月)と 2025 年漁期(2025 年 10 月－2026 年 4 月)に陸奥湾 3 地区で水揚げされたマナマコの体重を測定して、漁獲物のサイズ構成を調べました。

3 地区で調べたマナマコ漁獲物の体重データを 15 g の階級幅に区切ると図 2 のような分布になりました。各地区 2 か月分の結果を年次比較したところ、漁法や時期によって体重分布の傾向に差はありますが、いずれの地区・月においても、2024 年漁期と比べて 2025 年漁期は体重分布が小型(左側)に寄っていることがわかりました。このようにすべての地区・月で共通した傾向が見られたことから、近年の漁獲量増加とともに、漁獲物のサイズ構成にも変化が生じている可能性が示されました。

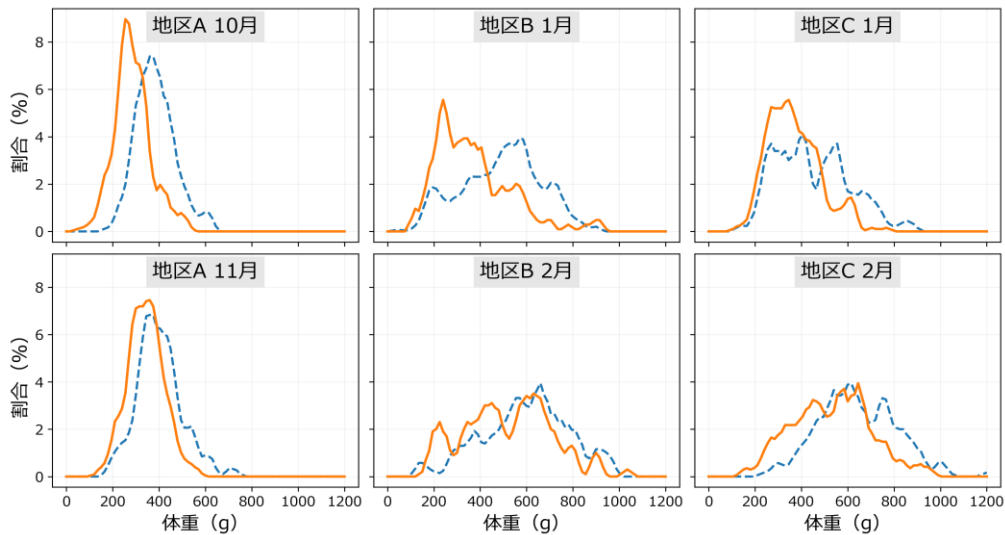


図 2. 漁獲されたマナマコの体重分布

青色の破線が 2024 年漁期、オレンジ色の実線が 2025 年漁期を示す。

地区 A、B が潜水漁獲物、地区 C が刺網漁獲物。

マナマコは、同じ漁期内でも時期によって多く見られるサイズが変化します。実際に今回の調査でも、1 か月目より 2 か月目の方が大型の個体の割合が高い傾向にありました。このような変化は、マナマコが漁場外で夏眠しており、夏眠から覚めると小型個体から徐々に漁場へ移入してくるためと考えられています。そのため、本調査で確認された漁獲物の小型化傾向は、「夏眠明けの遅れ」つまりマナマコの動き出しが遅れたことにより、漁場への移入時期が後ろへスライドした結果である可能性が考えられました。

そこで、マナマコの消化管を数か月にわたり採取し、その発達状態を調査しました。マナマコの消化管は夏眠明け以降に発達するため、その状態は夏眠明けの時期をある程度反映すると考えられます。消化管の発達状態は、消化管指数(体壁重量に対する消化管重量の割合)によって評価しました。その結果、この数値には2年間で大きな差は見られませんでした(図3)。この調査は体重分布を調べた3地区とは別の湾内地区で行ったものであり、直接的な対応関係があるとは言えませんが、夏眠明けの時期やその後の成長が、漁獲物のサイズに影響を与えるほど遅れていたと言えるような結果は確認されませんでした。

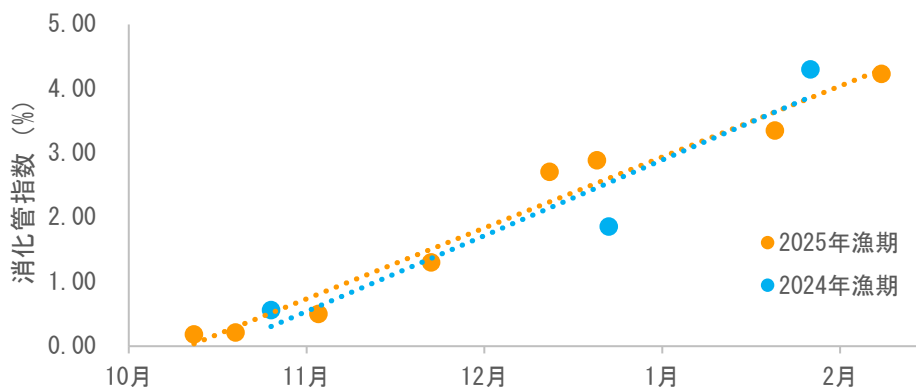


図3. マナマコの消化管指数の季節変化

この2年で起きた漁獲量の増加とあわせて考えると、今回見られた漁獲物の小型化傾向には、資源量や資源の年齢構成の変化、さらには人為的な要因が関与している可能性が高いと推察されます。資源量に対して漁獲圧が高まった結果、それまであまり漁獲されていなかった比較的小型な個体も漁獲されやすくなったのかもしれませんが。

今後も漁獲量の情報に加えて、漁獲物のサイズ構成や消化管指数のような生理状態をモニタリングし、資源と漁業のバランスを総合的に判断していくことが重要と考えられます。

水産研究職員の採用募集の案内

令和8年10月採用または令和9年4月採用予定の水産研究に携わる研究職員1名を募集しています。詳細は、青森県産業技術センターのホームページ (URL: <https://www.aomori-itc.or.jp/>) の「採用情報」をご覧ください。また、必要に応じて当研究所にお問合せください。

<申込方法、受付期間及び第1次試験日>

申込方法	持参・郵送(センター本部事務局総務室あて) メールによる提出(E-mail: saiyou@aomori-itc.or.jp)
受付期間	令和8年6月10日(水) 17:00まで
第1次試験日	令和8年6月28日(日)
試験会場	青森県観光物産館アスパム

※身分は、(地独)青森県産業技術センターの職員となります。

主な年間行事予定

時 期	会議、行事名	場 所
4 月	青森県農林水産部出先機関長会議	青森市
	中型いか釣り船漁期前情報会議	八戸市
5 月	青森県産業技術研究推進会議	青森市
6 月	第 1 回地域水産試験研究振興協議会	東京都
	クロマグロ協定全体会議	青森市
	試験船「開運丸」アカイカ調査出港式	八戸市
7 月	春季養殖ホタテガイ実態調査報告会	青森市
	東北ブロック水産試験場等連絡協議会	岩手県
8 月	北部日本海ブロック水産試験場等連絡協議会	石川県
	青森県青年・女性漁業者交流大会	青森市
10 月	水産総合研究所公開デー「見る知る一日」	平内町
11 月	全国水産試験場長会全国大会	秋田県
	東北・北海道魚類防疫地域合同検討会	岩手県
12 月	青函水産試験研究交流会機関連絡会議	青森市
	秋季養殖ホタテガイ実態調査報告会	青森市
	水産部門研究報告会「チエガス」	平内町
1 月	青森県「農林水産力」強化本部水産部会	青森市
2 月	青森県資源管理計画検討協議会	青森市
	都道府県水産関係試験研究機関長会議	東京都
	全国水産業関係研究開発推進会議	東京都
	第 2 回地域水産試験研究振興協議会	東京都
	青森県栽培漁業協議会	青森市
3 月	青森県水産試験研究成果報告会（水産・食品部門）	青森市
	ホタテガイ天然採苗予報に関する協議会	青森市

